

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 岡山大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際的な視野を持ち、現代の課題を共有し、東アジア共通の伝統的教養や地域の文化に精通した行政、医療、環境、生産などの多分野にわたって三国の協業をリードできる知的リーダーを育成する。

【構想の概要】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校が、アジア共通の価値観形成と次世代の中核的人材育成を目指し、深い伝統的な教養をもったアジアクラフト(アジアの共通善に資する地域行政、民間組織の指導者)、地域医療をリードする医療人、三国の協業をリードできる企業中堅幹部候補等の輩出を目指す。同時に、東アジアの共通教育システムの構築を目指す。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 東アジア型グローバル教養教育システムの確立

3校の特徴的な授業群を「東アジア型グローバル教養教育システム」として体系化した。岡山大学においては、現地語学習の強化をベースとした多言語セミナー、サマースクール、中韓ワークショップ、まちなかキャンパス、異文化理解講義、ナノバイオコース、自然系ワークショップなど、PBL・CBL(Community Based Learning)を基礎とした教育プログラムを充実させた。

○ 日中韓共通教科書の作成とその活用

現代東アジア経済の現状と展望について議論する素材となる共通教科書、東アジアの伝統と思想、共通の価値観などを考える共通教科書などを発刊し、広く活用した。

〈修了証を授与された留学生たち〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈成果報告国際シンポジウム〉



○ 高いモビリティの達成

5年間の事業実施期間を通じ、岡山大学は562名の長・短期派遣・受入を達成した。また、延べ1,200名の学生が、キャンパス・アジアプログラムに参加した。

○ キャンパス・アジア成果報告国際シンポジウム

5年間の活動の成果と、その活動の中から獲得した特筆すべき取り組み、確立された共通教育モデルを、広く高等教育現場で共有するため、3校の関係者、国内外関係者、学生を集めて国際シンポジウムが開催された。

○ 学位授与制度の整備と国際共同大学院の設立

これまで、ダブル・ディグリー協定の拡充、ジョイント・ディグリー協定の準備を進めてきたが、さらに国際共同大学院の設立を展望しながら共同教育の制度整備を図っていきたい。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣(延べ約322名達成)

平成27年度までに、本学から協定校に長期47名、ショートビジット275名、計322名の院生・学部生を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ(延べ約240名達成)

平成27年度までに、協定校から長期67名、ショートステイ173名、計240名の院生・学部生を受け入れた。

| | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
|-----------|---------|----------|----------|----------|----------|
| 日本(J)での受入 | C0, K12 | C6, K27 | C37, K49 | C21, K29 | C26, K33 |
| 中国(C)での受入 | J14, K4 | J34, K15 | J36, K7 | J47, K7 | J16, K8 |
| 韓国(K)での受入 | J5, C5 | J47, C5 | J43, C17 | J49, C10 | J31, C5 |

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人留学生の送り出し

語学力アップのための派遣前後教育・地域と連携する短期プログラムの充実、派遣学生掘り起こしのための中韓ワークショップ実施、留学中履修した科目のスムーズな単位互換制度の整備、マンスリーレポート制度の導入やiPadによる遠隔教育指導に取り組んだ。

○ 中国人、韓国人留学生の受け入れ

キャンパスアジア科目の豊富化と体系化、キャンパスを超えた地域連携型ワークショップの実施、他大学CA学生との交流、チューターの配置、学生クラブのサポート、言語教育サポートの強化、シェアハウスの充実、地域活動参加などによる留学生生活の充実に取り組んだ。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況情報の公開・成果の普及

○ HP等による情報発信と各種報告書による成果の普及

教育内容は、取り組みごとにレポートを作成し、印刷物およびホームページ(<http://campus-asia.ccs.v.okayama-u.ac.jp/>)を利用して、情報を発信している。その他、多種多様なSNSを通じて、学生活動、教育内容、制度構築等に関わる日々の活動をタイムリーに発信し、パートナー校との情報交換もタイムリーに行われている。

今年度、学生が独自に情報発信するCA学生新聞「ハレジア」は4回発行された。また、5年間の成果をまとめた『キャンパス・アジア事業成果最終報告書 The Five-Year Experience and a New Horizon for Cooperation』を発行した。